

第5章

さくらのまちづくり実現に向けて

第1節 5年後の目指すべき姿

本計画策定により、5年後の目指すべき姿は、次のとおりです。

- 1 市民・企業・行政の協働により、桜の適切な管理や保全を行う体制が構築されて活動が進み、樹勢の良い桜が増えています。
- 2 桜の歴史を学んだり、さくらのまちづくりに関するイベント等に参加する機会が増え、桜に愛着を感じたり誇りに思う市民が増加しています。
- 3 桜の名所である重要管理拠点の再整備とともに、新たな桜の拠点づくりが進み、魅力的な交流拠点の創出が図られています。
- 4 観光施設と桜の名所との連携や、SNS等を活用した情報発信の強化により、本市の魅力向上が図られ、交流人口の拡大や地域の活性化につながっています。



図38 かみね公園将来像

第2節 計画の推進体制

本計画の推進体制は次のとおりです。

1 日立市さくらのまちづくり推進市民会議の運営

本市のさくらのまちづくりを官民協働により推進するため、市民団体・教育関係団体・市関係機関・産業界・学識経験者等で構成された当組織において、施策を審議するとともに、市民活動の中心的な役割を担っていきます。

2 市民・企業・行政の連携

本市には市有施設である公園、街路、学校、交流センターを始め、神社や企業敷地にも数多く桜が植えられ、春の風景を彩るとともに市民に親しまれています。

これらの桜を、世代や組織を超えて守り育てる活動が、地域の連携やまちの活力を生み出す源となります。

市民・企業・行政が連携して桜を守り育てる体制を構築し、技術向上の取組の推進や、適切な管理と保全に務めることが「さくらのまち日立」の実現につながります。

3 人材育成のための教育機関との連携

次世代に桜を引き継ぐためには、子どもたちが桜に愛着を感じる取組が必要です。教育機関と連携し、小学生を対象にさくら教室を開催し、本市の桜の歴史や桜の特性などを伝えることで、桜を大切に思う心を育み、次世代を担う人材の育成を図ります。

4 桜を活かした観光・商業関係者との連携

各観光施設や観光物産協会等との連携強化により、桜と観光資源を結びつけた回遊性を創出し、交流人口拡大を図ります。

また、商工会議所や企業等と連携し、新たな桜のブランド商品の開発やPRを行い、桜の花が咲く季節を過ぎても、「さくらのまち日立」を市内外に広く印象付けます。

5 市内外支援者との連携

さくらのまちづくりを推進していくため、市内外在住者から支援を募る「桜のサポーター制度」を創出します。

さくらのまちづくりに関するイベント支援、里親支援及び募金による支援などを通じて、多くの人々が「さくらのまち日立」に関わることができる体制づくりを行っていきます。

第3節 計画のスケジュール

5年後に目指すさくらのまちづくりの実現に向けて、取組期間を定めます。

基本方針1 / 「さくらのまち日立」の原風景を次の世代に引き継ぐまちづくり

→ 実施期間

施策の方向性	基本施策	第1期（5年）		
桜の所在と現状の把握	市民や企業との協働による桜の樹勢点検	→	→	→
守り育てる体制の構築	地域コミュニティによる桜を守り育てる体制づくり		→	→
	桜の知識や技能を有する「ひたち桜守」の認定			→
次世代へ引き継ぐ取組	名木の保全と樹勢回復	→	→	→

基本方針2 / 誇れるふるさとのシンボルとしての意識の醸成

施策の方向性	基本施策	第1期（5年）		
桜を誇る意識の醸成	地域を代表する「わがまちの桜」選出	→		
学びふれあう機会の創出	未来を担う子どもたちが学ぶ「さくら教室」の開催	→	→	→
	桜とふれあう植樹祭や観察会の開催	→	→	→
価値向上への取組	企業や教育・研究機関と連携した桜材の活用研究			→

基本方針3 / 桜を活かした魅力的な交流拠点の創出

施策の方向性	基本施策	第1期（5年）		
既存の名所の魅力向上	平和通り	→	→	→
	桜の重要管理拠点のかみね公園再整備		→	→
	鞍掛山	→	→	→
	十王パノラマ公園			→
新たな名所の創出	「ひたちらしさ」を演出する市固有の桜名所づくり		→	→
	魅力ある新たな桜の名所創出			→
桜の特性を活かした演出	桜の名所をつなぐ回遊性の創出			→

基本方針4 / さくらのまちづくりによる地域の活性化

施策の方向性	基本施策	第1期（5年）		
桜を活用した観光振興	桜と観光資源を結びつけた観光振興	→	→	→
	企業等との連携による桜の特産品の開発・販売促進		→	→
情報発信の強化	SNSを活用した桜の情報発信強化	→	→	→
支援体制の確立	市内外の支援者による「桜のサポーター制度」創出			→

第4節 財源確保の検討

1 本市の取組

さくらのまちづくり推進市民会議が所管する基金として「日立市さくら基金」があります。本基金は、市民や企業からの寄附金を募り、さくらのまちづくりを推進する事業に活用しています。また、令和3（2021）年は、ふるさと納税制度を活用し、寄附金の使途をより具体的にプロジェクト化し、共感した方から寄付を募るガバメントクラウドファンディングを活用して、平和通りの桜更新事業の財源としました。

2 先進事例

(1) 山梨県富士吉田市

山梨県富士吉田市には、桜と富士山と五重塔で有名な新倉山浅間公園があります。本公園のソメイヨシノは、植樹してから年月が経過し樹勢が衰えてきたため、クラウドファンディング型のふるさと納税を活用して樹勢回復に必要な資金約7,700万円（目標額150万円、達成率約510%）を調達しました。

また、本公園の一番のフォトスポットを楽しむためのウッドデッキの改修工事のため約4億1,200万円（目標額1億円、達成率約410%）を調達しました。

当初の目標額を超えた金額に関しては、さくら基金を新たに創設し、毎年の樹勢回復作業に充当しています。



新倉山浅間公園—富士山と桜と五重塔の風景

クラウドファンディングとは、群衆（クラウド）と資金調達（ファンディング）を組み合わせた造語で、インターネットを介して実現したい夢や活動を発信し、趣旨に賛同した人々から資金を募る仕組みです。

(2) 東京都千代田区

千代田区には、桜の名所であり、皇居のお堀として知られる千鳥ヶ淵があり、毎年桜の開花時期に多くの方が訪れます。その際の募金活動や行政からの支援金は、一般会計には含めずに公益信託制度を活用して基金の運営をしています。基金の運営には、千代田区さくら基金運営委員会が助成審査機関としての役割を果たしており、区の桜の管理や区のさくらサポーターに対して助成を行っています。



皇居の内堀である千鳥ヶ淵の写真

(3) 東京都目黒区

目黒川は、上野公園や靖国神社などと並び都内有数の桜の名所です。地域のシンボルとなっている目黒区内の桜を守るために平成25年度に「目黒のサクラ基金」を設立しました。目黒川沿いの桜だけでなく、碑さくら通り、田向円融寺通り等の街路樹の桜、碑文谷公園、駒場公園、駒場野公園、緑道の桜などに対して、積立てた寄附金を、植替え・保護に充てています。令和2年度までに、約1,200万円が集められ、そのうち約450万円が桜の植替え・保護に使われました。本基金は、毎年「目黒の桜保全事業報告会」において使い道を報告しています。



目黒川の夜桜

3 今後の取組

(1) ガバメントクラウドファンディングの実施

寄附金の使用目的をより具体的にプロジェクト化し、共感した方から寄附を募る、ガバメントクラウドファンディングを活用する自治体が全国的に増えていくことが予想されます。本市でも、さくらのまちづくりを推進していく過程において、重要管理拠点や新たな拠点整備等の財源に不足が生じる場合には、活用を検討します。

(2) 日立市さくら基金の充実

本基金は、市民や企業からの寄附金を募り、さくらのまちづくりを推進する事業に活用することを目的として、日立市さくらのまちづくり推進市民会議が所管しています。基金を民間の桜に活用するなど、寄附を何に活用していくかを明確にするとともに、寄附をしていただくための工夫等、多くの人々に賛同いただける仕組みを検討し、充実を図っていきます。